

行事報告「竹笛工作教室」 平成30年5月20日(日)

参加者7名。講師は高林行善（たかばやし ゆきよし）さん。竹笛を作るには竹の採集、処理、加工、彫り、仕上げといくつも工程があり完成まで数か月を要します。当日は時間の都合上、完成まであと1歩の竹笛を用意していただき、午前中に完成させて、午後は演奏の練習をしました。最初は音を出すことそのものに苦労し、また初めて見る笛用の運指表と楽譜（がくふ）にとまどいしましたが、数時間後には音階の少ない曲なら何とか吹けるようになりました。参加者は熱心な方ばかりで「ぜひ今度は自分で一から製作してみたい。」とやる気満々。教室終了後もしばらくは講師を囲んで質問が止みませんでした。

1 講師の紹介

講師の高林行善さんは庭師をされていますが、20年前から始めた笛は、あちこちのイベントから演奏の依頼がくる腕前です。また、演奏だけでなく製作もされています。年間300本近く作る竹笛は、毎年、地元の小学校にも寄贈されています。

2 製作説明①

竹の採取に適した時期、採取後の竹を真っ直ぐにする処理の仕方、太さによる用途と選別についてや穴の開け方など、当日用意された段階までの工程が丁寧（ていねい）に説明され、参加者からはそのつど質問が挙がっていました。

3 製作説明②

作業についての注意点。テンプレートで印をつけてある吹き口と指穴を小刀でけずっていくのですが、力を入れすぎたり、けずる方向が悪いと竹が割れてしまいます。けずる方向や小刀の持ち方、竹をおさえる台の使い方などの説明がありました。

4 笛の製作①

木の台に笛を固定して穴の形どおりに少しずつけずっていきます。断面が垂直になるのがポイントで、穴を開け終わったら紙ヤスリをかけてなめらかにします。皆さん真剣に作業され、講師に出来栄を確認していました。

5 笛の製作②

吹き口側に和紙をつめ、焼いたコテで松ヤニと蜜蠟（みつろう）を合わせたものを溶かして蓋（ふた）をし、作業を終了しました。

6 講師の演奏

最後に高林さんから1曲演奏していただきました。竹笛は息を舌で区切って音を出すのではなく、息を吐いたまま指の動きで区切っていくので、音のつながりがなめらかです。演奏者の唇（くちびる）や息の使い方などによって、大きく音に幅（はば）が出ていました。

7 歌舞伎（かぶき）用の笛

高林さんは、ウグイス、メジロなどの鳴き声のような音が出る笛も試行錯誤（しこうさくご）しながら製作していて、実際に歌舞伎の音響（おんきょう）効果にも使われているそうです。笛の作りはシンプルですが、出てくる音は本物そっくりでした。

1 講師紹介



2 製作説明①



3 製作説明②



4 笛の製作①



5 笛の製作②



6 講師の演奏



7 歌舞使用の笛

